

Special Exhibition:

"The Flower of Jade Green - Longquan Celadon of the Ming Dynasty"
Recent Archaeological Findings of the Dayao Fengdongyan Kiln Site

歴史は、青から碧へ。
初公開、歴史を塗り替える大発見。

龍泉窯青磁は鎌倉時代以降、日本にも数多くもたらされ、日本人になじみの深い中国陶磁の一つです。

2006年、浙江省文物考古研究所、北京大学考古文博学院、龍泉青瓷博物館は龍泉大窯楓洞岩窯址の共同発掘を行い、大きな成果を得ました。この楓洞岩窯址からは、北京や台湾の故宮博物院、トルコのトプカプ宮殿やイランのアルデビル廟などに伝世する大型の皿や水注などに類する「碧緑（碧玉の緑）」の青磁片が出土したことから、ここが明時代の洪武・永楽年間に宮廷用の青磁製品を焼成した窯であることが明らかになりました。窯址からは「永楽」など紀年銘のある窯道具や「官」字銘資料も見つかっています。文献には明初に宮廷の命により「処州（当時の龍泉一帯の名称）」に御用品の青磁をつくらせたという記述があり、この楓洞岩窯址がその中心的な窯場であったことが分かります。さらに、この発掘は、これまで明時代以降に衰退したとされてきた龍泉窯の歴史をくつがえす画期的なものでもありました。

本展では近年の中国陶磁史上の重要な考古学的発見の一つであり、龍泉窯の歴史を書き換える一大発見である龍泉大窯楓洞岩窯址の発掘成果を出土品80点により日本で初めて紹介します。



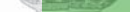
青磁刻花折枝芙蓉文後花盤（明時代）



青磁刻花雲龍文盤（明時代）



青磁水注（明時代）

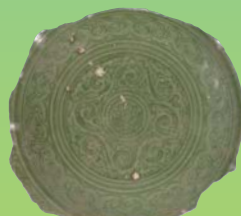


国宝・飛青磁花生（元時代）

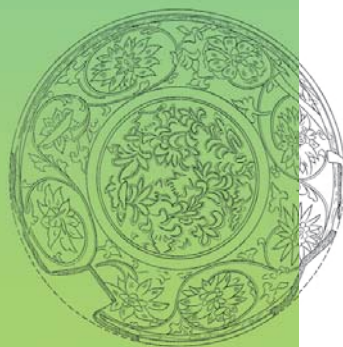
特別出品（平常展）



青磁刻花蓮唐草文鉢（明時代）



青磁刻花宝相華文盤（明時代）



同時開催：[特集展] 掌中の美——沖正一郎コレクション鼻煙壺
[平常展] 安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクション韓国陶磁、日本陶磁

休館日：月曜日[9/19(祝)、10/10(祝)、12/19は開館]、9/20(火)、10/11(火)

開館時間：午前9時30分～午後5時

※ただし、「光のルネサンス」期間[12月14日(水)～12月25日(日)]は午後7時まで
※入館はいずれも閉館の30分前まで

観覧料：一般 800円(640円)、高大生 480円(400円)

・()内は20名以上の団体料金・身体障害者手帳、ツルのマーク付健康手帳、
大阪市敬老優待乗車証などをお持ちの方、中学生以下は無料

主催：大阪市立東洋陶磁美術館、浙江省文物考古研究所、浙江省博物館、龍泉青瓷博物館

企画協力：株式会社アサヒワールド

最寄駅：京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ、地下鉄御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」、
地下鉄堺筋線・京阪本線「北浜」各駅から約400m、大阪市中央公会堂東側

moc
OSAKA

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島 1-1-26
電話 06-6223-0055 Fax 06-6223-0057
http://www.moco.or.jp

